

## 教材「走れメロス」の語彙研究

河 内 昭 浩

### Using *Run, Melos!* as Teaching Material for Vocabulary Research

Akihiro KAWAUCHI

#### 1. 研究の目的

「走れメロス」が中学校国語科の教科書に初めて掲載されたのは、1956年（昭和31年）のことである。以来主に中学校第2学年の教科書に掲載され続け、現在も、中学校第2学年の全5社の教科書にある。教科書に提示される教材の学習目標、指導のねらいは学習指導要領に基づいており、各社ほぼ同様である。例えばA社の教科書には、教材文の冒頭に以下のような目標が掲げられている。

- ・作品を読み、登場人物の行動や考え方について、自分の考えを持つ。
- ・描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わう。

前者の目標は、中学校学習指導要領国語第2学年「読むこと」の指導事項である、「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つこと」と重なる。信実、友情を標榜し、自分の身代りとなってくれた友セリヌンティウスのために走る主人公メロス。そのメロスを信頼する友セリヌンティウス。そして人間不信の王ディオニス。時に弱さや醜さも見せる、人間味あふれる登場人物の言動は、中学生から賛否いずれの反応も引き出し、結果として活発な授業が展開できることになる。また後者の目標にあるように、これら登場人物の心情は変化していく。思春期の心身の変化の激しい中学2年生にとって、登場人物の葛藤と変化は、大いに共感できるものである。

学習指導要領の改訂によって指導事項に多少の変更はあっても、上記のような教材価値は長く概ね不変であり、また使用する教科書によってその教材価値が変化することはない。しかしながら、詳しくは後述するが、学習事項として取り上げられる「語句」は、各社で大きく異なっている。

教科書の文学教材には、脚注欄に、文やイラストなどで説明の施される語句（以下、「注釈語句」と呼ぶ）と、語彙の学習を行うために列記される語句（以下、「注意語句」と呼ぶ）が配置される。注釈語句は、児童生徒の本文読解を補助する役割を持つ。逆に言えば、指導する側が、そのままでは子どもたちが理解できないであろう、読解のために解説が必要であろうと考える語句に注釈が付けられていることになる。また注意語句は、その語句を用いて類義語や対義語などの語彙の学習を行うために列記される。つまり注意語句は、社会生活を行う上で習得、活用が必

要な語句であると判断されていることになる。この注釈語句、注意語句を検討すると、各社の教科書で大きく異なっているのである。同じ「走れメロス」でも、使用する教科書によって、学習する語句は異なるということになる。

その理由の一つには、各教科書の教材の配列の都合があるだろう。どの教材群の中のどこに配置するかによって、取り扱う語句が異なる可能性はある。また、脚注欄の取扱いや語彙学習に対する各社の見解の相違も、語句選択に当然反映されることであろう。しかしそれ以上に、どの語句に注釈をつけるべきなのか、またどの語句を社会生活上必要な語句として習得させるべきなのかについての、明確な根拠、指針がないことが最たる要因ではないかと考えている。そもそも明確な根拠、指針を持って指導すべき語句を選定するという観点そのものが、文学教材に限らず、語彙指導全般に不足していたと考えている。

筆者はこうした問題意識のもと、文学教材の語彙指導の検討を進めている。これは、国語教育におけるコーパスの活用を目的とした、特定領域研究「日本語コーパス」内プロジェクト、言語政策班（2006年～2011年）での共同研究活動の延長線上にある。論考としては、田中（2011）による「少年の日の思い出」の研究、河内（2012）による「羅生門」の研究に続くものとなる。研究の端緒として現在は、長く教科書に掲載が続いている、いわゆる定番教材に焦点を当てている。この定番教材の語彙指導研究の目的は、言語政策班のリーダーでもある、国立国語研究所の田中氏の以下の言葉に集約されている。

定番教材は、教師や教材開発者によって様々な角度から研究が重ねられ、指導の実績も豊富であり、国語教育界に指導上の様々な知見が蓄積されてきているはずである。しかし、教材化されたこの作品（「少年の日の思い出」のこと。引用者注）を、語彙指導という観点から教科書や教師用指導書を見る限り、学習すべき語句あるいは指導すべき語句として指示されているものについて、語句の何を学習すべきなのか、どのような観点で指導すべきなのかが明示されていないものが多い。（中略）本特定領域研究（前述の特定領域研究「日本語コーパス」のこと。引用者注）によってコーパスが整備され、現代日本語の語彙を体系的に把握することが可能になりつつあるいま、語彙指導の教材研究の知見を体系化し新しい段階に進めることができないだろうか。（田中（2011））

コーパスという実証的で客観的な資料を用いることで、定番教材のみならず、幅広く文学教材や、さらには論説文教材においても、語彙指導の体系を確立できると考えている。本稿もその体系の確立に向けた一歩としたい。

尚コーパスの国語教育への活用として、本稿のような文学教材の語彙指導研究とは別に、コーパスを用いた新たな教材の開発や、ICT教材の一つとしてコーパスを授業で使用するなどをこれまで試みてきた（河内（2011）など）。新しい教材、新しい授業の開発のために、新たにコーパスを活用する。そうした趣旨の研究である。こうした開発・活用はすでに英語教育や日本語教育の分野で盛んに行われている。国語教育学においても進めていかなければならない。

一方今回の提案は、既存の教材の既存の指導事項に、コーパスを照射し検討を加えるというものである。このように従来为国語科の指導事項や指導方法を評価し、その指導の根拠を与える目的でも、コーパスは有効に活用できることが分かってきた。今回は、文学教材の語彙指導に焦点を当てているが、様々な国語科の学習の「指導の根拠」として、コーパスはこれから国語教育学において大きな役割を果たしていくものと考えている。

## 2. 注釈語句・注意語句一覧表

まず、「走れメロス」の注釈語句と注意語句の一覧表を提示する。尚、本一覧表をはじめとした一連の語彙表の作成方法は、河内（2012）等と同様である。まず作品本文全体の形態素解析を行う。そのデータに、特定領域研究で作成した「現代日本語書き言葉均衡コーパス」から算出した「語彙レベル」（a～e）を結合させている。

下記の[注釈語句・注意語句一覧表]について説明する。語句はすべて、「走れメロス」を掲載している中学校教科書会社5社（A～E社）の、脚注欄にある語である。脚注欄の語句の名称は各社異なるが、前述した機能の上から、注釈語句（○）か注意語句（●）かに分類している。また、「LB」とは、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を構成する一つのサブコーパスである、「図書館サブコーパス」を指し、表にはその語彙レベルが記されている。通し番号109以降にはレベルを付していない（-）。これは、「LB」では見られないためレベルが付与されないが、LB以外のサブコーパス上でレベルが付与されていることを示す。ちなみにLB以外のコーパスでのレベルはいずれもeである。尚、脚注欄の語句は5社合計で延べ142語である。一覧表にはそのうち、レベル判定が可能であった114語について提示している。

[注釈語句・注意語句一覧表]

	語句	A社	B社	C社	D社	E社	LB
1	正当	●		●			a
2	まさしく	●					a
3	精神			●			a
4	まさか	●					a
5	義務		●		●		a
6	徐々に			●			a
7	激怒		●				b
8	敏感			●			b
9	(十)里	○	○	○	○	○	b
10	ひっそり	●					b
11	憚る	●	●	●	●	●	b
12	懐中		●		●		b
13	忠誠		●				b
14	処刑		●				b
15	処する		●				b
16	陽気	●					b
17	たたえる	●					b
18	未練	●	●		●		b
19	呆然	○			○		b
20	一挙(に)		●				b
21	茫然	○			○		b
22	不信		●				b
23	疑惑		●	●			b
24	遂行		●	●	●		b
25	先刻		●				b
26	仰天	●				●	b
27	邪悪		●				c
28	未明			●	●	●	c
29	律義		●		●		c
30	威厳				●		c
31	問い詰める	●					c
32	蒼白		●				c
33	眉間				●		c
34	反駁		●	●		●	c
35	悪徳		●				c
36	嘲笑		●	●	●	●	c
37	瞬時		●				c
38	残虐			●	●		c
39	ほくそ笑む	●	●	●	●	●	c
40	日没		●				c
41	頑強		●	●			c
42	すかす			●			c
43	宣誓		●				c
44	満面	●					c
45	会釈		●				c
46	悠々	●					c
47	持ち前		●				c
48	小歌					○	c
49	はたと	●					c
50	立ちすくむ	●					c
51	ゼウス	○	○	○	○	○	c
52	哀願	●		●	●	●	c

53	渦巻く		●				c	84	路傍		●				d
54	ひるむ	●	●	●	●	●	c	85	巢くう		●	●			d
55	萎える		●		●	●	c	86	放免		●		●		d
56	無心	●		●			c	87	定法	○	●	○	○		d
57	卑劣		●		●		c	88	まどろむ		●		●		d
58	四肢	○		○			c	89	斜陽		●				d
59	こんこん		○				c	90	疾風		●		●		d
60	風体(態)		●	○	○	●	c	91	どよめく	●					d
61	抱擁			●			c	92	緋	○	●	○	○	○	d
62	まじまじ	●					c	93	赤面	●		●			d
63	空虚	●	●	●	●		c	94	竹馬の友	●	●	●	●	●	e
64	妄想			●	●		c	95	乱心		●				e
65	牧人	○			○		d	96	巡邏	○	○	○	○	○	e
66	祝宴		●				d	97	悪びれる		●				e
67	捕縛		●		●		d	98	私欲	●					e
68	いきり立つ	●		●		●	d	99	無二	●	●	●		●	e
69	はらわた			●			d	100	やつばら			○			e
70	見え透く			●			d	101	車軸を流す	○	○	○	○	○	e
71	うぬぼれる	●			●		d	102	喜色		●				e
72	磔刑	○	○	○	○	○	d	103	信実	○	●	●	●	●	e
73	じだんだ	●	●	●	●	●	d	104	照覧	○	●	○	●		e
74	満天		●				d	105	胴震い		●				e
75	一睡				●		d	106	五臓	○	●	○		○	e
76	疲労困憊		●		●	●	d	107	残光		●				e
77	説き伏せる				●		d	108	刑吏		○		○	○	e
78	薄明		●		●		d	109	賢臣		●				-
79	せせら笑う			●			d	110	憫笑	○	○	○	○	○	-
80	満身		●				d	111	日限		●				-
81	憐愍	○		○	○	○	d	112	奸佞	○	○	○	○	○	-
82	灼熱		●		●		d	113	せんせん	○	○	○	○	○	-
83	希代	○	●	●	○		d	114	歎歎	○	○	○	○	○	-

まず一目して、各社で選択している語が大きく異なることが分かる。全社共通の扱いの語句(すべて○かすべて●)は、114語中以下の14語(注釈語句9語、注意語句5語)しかない。

注釈語句(○)：十里 磔刑 ゼウス 巡邏 車軸を流す 憫笑 奸佞 せんせん 歎歎
注意語句(●)：憚る じだんだ ほくそ笑む 竹馬の友

また下記の語は、注釈語句として説明が施されるか、注意語句として語彙学習の対象となるか、その扱いが教科書によって分かれるものである。

風体(c) 希代(d) 定法(d) 緋(d) 信実(e) 照覧(e) 五臓(e)
--

中でも「信実」は、作品の主題に関わる重要語である。「あの王に、人の信実の存するところ

をみせてやろう」とメロスは走る。途中で倒れかけたときも、「愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい」と「信実」を口にする。そして抱き合うメロスと友セリヌンティスを見て暴君ディオニスは、「信実とは、決して空虚な妄想ではなかった」と述べ、物語が閉じていく。こうした重要語の語句としての扱いが、教科書によって異なることには違和感を覚える。またそもそも教科書によって、指導すべき語句として取り上げる語句数が大きく異なる。

	A社	B社	C社	D社	E社
注釈語句	29	19	26	27	24
注意語句	33	72	40	37	22
計	62	91	66	64	46

最大計（B社：91）と最少計（E社：46）ではおよそ倍の開きがある。このように、教材の目標や指導のねらいはほぼ同様であるにも関わらず、指導する語句については、数も扱い方も大きな違いがあることが分かる。前述したように、語彙指導の体系化がなされていない一つの証左であると言える。

ここでは、指導すべき語句の評価の基準として、語彙レベル<sup>1</sup>を用いる。特に、図書館書籍のデータを基に作成されたレベル（レベル\_LB）をもって判定する。レベル\_LBは社会での流通状況を示している。国語科は社会生活で役立つ言葉の力の育成を旨とする<sup>2</sup>。従って子どもたちに、レベル\_LBの高い語を使いこなせるように指導する必要がある。その観点から、語彙学習を前提とする注意語句は、レベルの高い語であるべきであると言える。逆に社会であまり流通していない語は、注釈語として説明を施すべきである。以上の観点から次に、「走れメロス」の注釈語句と注意語句について考察する。

### 3. 「走れメロス」の注釈語句

「走れメロス」の注釈語句をレベル別にまとめると以下の通りになる。

レベル LB	語数	注 釈 語 句
a	0	
b	3	(十) 里 呆然 茫然
c	4	ゼウス 小歌 四肢 こんこん
d	3	磔刑 憐愍 牧人
e	4	巡邏 車軸（を流す） 刑吏 やつばら
一(判定なし)	7	憫笑 奸佞 邪知 せんせん 歎歎 南無三 警吏

レベルbからeまで、その幅は広い。教科書による語句の選定状況のみならず、選定された語句そのものもばらつきが大きいことが上記の表で分かる。河内（2012）で「羅生門」の注釈語

- 1 語彙レベルについては、田中（2011）や河内（2012）で詳細に述べているのでここでは繰り返さない。その算出元である「現代日本語書き言葉均衡コーパス」や語彙表についても同様とする。
- 2 中学校学習指導要領には、「日常生活」「社会生活」という言葉が繰り返し出てくる。PISA調査等の結果を受け、新しい学習指導要領では、実生活に役立つ言葉の育成という方針が強く打ち出されている。語彙指導も、本来この観点から検討を加えられなければならないはずである。

句を調査した際、多くの注釈語句はレベルの下位にあり、注釈を付すことと、社会での流通状況とに一定の相関が見られた。「走れメロス」においてなぜそれが見られないのか。今後過去の教科書や他教材と比較しながら検討していきたい。

また表中に「呆然」と「茫然」という類義語が見られる。ともにレベル上位であり、注意語句として扱うのが適切であると考えられる。本文を生かして語句の意味を理解させ、語彙を豊かにさせる格好の機会となる語である<sup>3</sup>。この2語の指導については別項で述べる。

繰り返すが、注釈語句は、そのままでは子どもたちが理解できないであろう、読解のために解説が必要であろうと指導する側によって判断される語句である。一方、レベル LB は、一般社会での語彙の流通状況の指針である。文学作品においては、例えば一般社会とは異なる意味付けをされ、作品で使用されている語句というものもあるかもしれない。しかしそういった例外を除けば、社会で出会う機会の少ない語彙は、子どもたちも知らない可能性の高い語彙であり、かつそれらは学習の場において優先的に学ばなければならない語彙ではない。従ってレベル判定が下位の語や、現代社会で流通していないためレベル判定ができない語が、注釈語句として望ましいはずである。

では、注釈語句に選定されなかった語以外に、どんなレベル下位の、またレベル判定不能な語が、「走れメロス」全体の中にあるのか。それを示したのが、下の表である。表中の二重線は注釈語句、一重線は注意語句として選定されていることを指す<sup>4</sup>。

レベル LB	「走れメロス」の語彙 (d～)
d	(漢語) 一事 一睡 宴席 希代 近々 困憊 疾風 斜陽 灼熱 酒宴 祝宴 赤面 短刀 定法 薄明 緋 捕縛 放免 暴君 牧人 満身 満天 勇者 裸体 列席 憐愍 路傍 磔刑 (和語) ごろり せいぜい せせら笑う のたうつ ぼつりぼつり まどろむ 囲み 殴り倒す 花婿 どよめく っこい 傾き掛ける 見え透く 荒れ狂う 黒雲 山越え うぬぼれる 小降り 少しく 寝転がる 真昼 吹き出る 説き伏せる あおり立てる 巣くう 打ち倒す 眺め回す はらわた 跳ね飛ばす あっぱれ いきり立つ 鞭打つ 命乞い 落とす かじり付く (混合) 内気 地団駄
e	(漢語) 悪心 雨中 喜色 刑吏 激流 五臓 刻限 残光 死力 私欲 車軸 巡邏 照覧 信実 濁流 竹馬 蕩蕩 奮迅 暴虐 無二 乱心 里程 隣村 (和語) のそのそ まごつく むんむん 悪びれる 右頬 嬉し泣き 橋桁 呼び立てる 裁ち割る 小耳 真っ裸 世継ぎ 男泣き 張り裂ける 渡守 やつばら 倒れ伏す 買い集める 妹婿 夢見 踊り狂う 揉み手 (混合) 胴震い
-	(漢語) 邪知 語勢 賢臣 警吏 憫笑 日限 羊群 奸佞 猛勢 せんせん 塔楼 歎歎 (混合) 南無三 身支度

中には子どもたちが知らないとは教師が想像しない語も目立つ。あるいは場面における適切な意味をとらえることが難しいと思われる語もある。例えば、「のたうつ」(d)という語の本文中の意味を、子どもたちは本当に適切に理解しているだろうか。手持ちの辞書には、「のたうつ…

3 中学校学習指導要領国語第2学年「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項の一つに「抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること」とある。

4 前記した「照覧」のような、注釈語句、注意語句どちらにも扱われているものは表では一重線で統一している。

苦しみもがいてころげまわる。」(新潮国語辞典)とある。しかし本文は以下の通りであり、上記の意味では説明できない。

メロスは、ざんぶと流れに飛び込み、百匹の大蛇のようにのた打ち荒れ狂う波を相手に、必死の闘争を開始した。

日本国語大辞典(小学館)で調べると、「のたうつ」の二つ目の意味として、「(比喩的に)波が激しく押し寄せる」とあり、これが場面に相応な意味であるように思える。しかし子どもたちは通常、大辞典を利用しているわけではない。また、「百匹の大蛇のように」という直前の比喩を考えると、「激しく押し寄せる」という意味が必ずしも適切ではないように感じられる。

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を「中納言」<sup>5</sup>で検索すると、「のたうつ」の文例は45例見られる。その中には以下のような文例がある。

- ・ゆるゆると、なめくじのような速度で、のたうっていたのです。(出版・書籍)
- ・巨大芋虫が、のたうって前進した。(図書館・書籍)

これらを見ると「のたうつ」には、辞書にはないが、「蛇のような生き物がゆっくりと進む」といった意味での使用があるようである。「走れメロス」の「百匹の大蛇のようにのたうち荒れ狂う波」という表現中の「のたうつ」にも、波の激しさとともに、「蛇」のイメージが包含されているように読める。

さらに以下のような例も見られる。

- ・声優の迫真の演技にのたうってしまって「きゃー」状態から脱することができなくて困ってる。(yahoo! ブログ)
- ・「好きだあっ!」くらいでのたうってるようじゃ「無理」と言われました。(yahoo! ブログ)

上記の表現には「苦しみ」は感じられない。むしろ程度の大きい「喜び」の表現のように読み取れる。いずれもブログ上の表記だが、現代の新たな「のたうつ」の使用方法として広まっているのかもしれない。

子どもの既知を前提としてしまっていることが、教材読解の妨げになることもある。何より大切なことは、こうした実証的なデータ、文例を積み重ねて、本当に注釈を付けるべき語句は何かを、根拠を持って定めていくことにある。

#### 4. 「走れメロス」の注意語句

次に「走れメロス」の注意語句について検証する。こちらも注釈語句同様に、多様なレベルの語句の集まりとなっている。

5 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/> 国立国語研究所のホームページから検索できる。登録が必要。

レベル LB	語数	注意語句
a	6	義務 正当 精神 徐々に まさしく まさか
b	17	はばかり 仰天 遂行 未練 懐中 疑惑 敏感 激怒 忠誠 処刑 処する 一挙に 不信 先刻 ひっそり 陽気 たたえる
c	33	ほくそ笑む ひるむ 嘲笑 哀願 未明 萎える 反駁 空虚 律義 残虐 妄想 卑劣 威厳 眉間 頑強 無心 すかす 抱擁 邪悪 蒼白 悪徳 瞬時 日没 宣誓 会釈 持ち前 渦巻く 問い詰める 満面 悠々 はたと たちすくむ まじまじ
d	23	じだんだ(を踏む) 困憊 いきり立つ 捕縛 薄明 灼熱 放免 まどろむ 疾風 うぬぼれる 一睡 説き伏せる 巣くう 赤面 はらわた 見え透く せせら笑う 祝宴 満天 満身 路傍 斜陽 どよめく
e	8	竹馬の友 無二 乱心 悪びれる 喜色 胴震い 残光 私欲
—	19	賢臣 日限 小耳に挟む 語勢 ままならぬ 独り合点 精も根も尽きる たまらない みじんもない 死力を尽くす 思うつぼ ぜひとも …のごとく ひよっとしたら おして 猛勢 …の徒 胸に宿す 夢見心地

注意語句は、類義語や対義語の学習や、意味調べの学習のために教材文から抽出されるものである。実社会で役立つ言語能力の育成という観点から、それらは社会でより流通している、図書館書籍のレベルの高い語句であることが望ましい。しかしこれまで実社会の流通を示す指針がなかったため、その判断は恣意的にならざるを得なかった。今後、代表性を有する現代日本語のコーパデータを活用することで、指導の根拠のある語彙指導が確立していくはずである。

レベル下位の語の中に、慣用表現が目立つ。そこでそれらの、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」中の出現総数と、メディア別の出現割合を示したものが下記の表である。

注意語句 (慣用表現)	総数	図書館書籍	出版書籍	出版雑誌	知恵袋	ブログ	ベストセラー	教科書
地団駄を踏む	63	42.9%	41.3%	1.6%	4.8%	3.2%	4.8%	1.6%
竹馬の友	6	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%
小耳に挟む	63	42.9%	19.0%	6.3%	15.9%	9.5%	4.8%	1.6%
精も根も尽きる	14	35.7%	35.7%	0.0%	0.0%	0.0%	21.4%	7.1%
死力を尽くす	33	30.3%	39.4%	3.0%	3.0%	12.1%	9.1%	3.0%
胸に宿す	1	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

「竹馬の友」という慣用表現は、全5社の教科書で注意語句として取り上げられている。しかしコーパス上の用例は少なく、実社会で必要な語句と判断するには至らない。漢文の故事由来のこの語句を子どもたちに学習させたいという心情は理解できる。しかし実社会での使用の場面は少ない。それならば、語句の由来も含めて注釈を施すほうが適切である。「竹馬の友」について学習させることが不要だと述べているのではない。中学生の語彙学習として、まずは実社会で必要な語句を使いこなせるようにさせることが優先されるべきだと述べているのである。

また「走れメロス」の語句を用いた語彙学習として、前述した、現在は注釈語句とされている「呆然」(b)「茫然」(b)を取り上げるべきだと考える。ともに実社会での使用頻度が高く、また類義語の学習としても、さらに教材の理解の上でも効果的であるからである。

両語の本文該当部分と付された注釈は以下の通りである。

本文「今宵**呆然**、歡喜に酔っているらしい花嫁に近寄り」

(A社) どうすればよいかわからず、ぼうっとするさま。

(D社) どうしていいかわからずに、ぼんやりとしている様子。

本文「彼は**茫然**と立ちすくんだ。」

(A社) 予想もしない出来事に遭い、気が抜けてぼんやりするさま。

(D社) (驚きのあまり) 気が抜けて、ぼうっとなってしまう様子。

前者(「呆然」)は、結婚式中の、喜びにあふれるメロスの妹の様子形容であり、後者(「茫然」)は、激流に橋が流され行く手を阻まれているメロスの様子を表している。A社、D社どちらの注釈を見ても、両者の意味の違いは判然としない。国語辞書を引いても同様である。ここでは、漢和辞書を使用させ、「呆」と「茫」の違いから言葉の意味と情景を理解させたい。

「呆」…象形文字。事の意外なのに驚く。頭の働きが鈍くなる。

「茫」…形成文字。どこまでも遠く続いているさま。ぼんやりしたさま。

(『漢語林』大修館書店)

前者について、教科書の注釈には「どうしたらよいかわからない」とある。しかし花嫁にしなければならないことがあるわけではない。歡喜のあまり、「頭の働きが鈍くなり」、物を考えることができなくなっているのであり、その様子が、「呆然」と表現されているのである。また後者は、「気が抜けてぼうっと」している場面ではない。激しい波が「どこまでも遠く続」き、事態に絶望しかかっているメロスの様子が「茫然」と表現されているのである。このように、類義語を学習させることで、場面の様子、人物の心情も的確に理解させることができる。教材理解とつながることでイメージも鮮明になり、子どもたちにとって生きた言葉として身につくはずである。

## 5. おわりに (参考資料)

参考資料を付してこの小論を閉じる。下表は、「走れメロス」中の、「図書館書籍(LB)で出現頻度が高く、Yahoo!ブログ(OY)で出現頻度の低い語彙」の一覧である。OYは日常語の指標である。流通している書籍の語と、子どもたちにとってより親しいブログ等の日常語との差異について、今後検討を加えていかなければならないと考えている。

LB-OY	図書館書籍で頻度が高くブログで頻度が低い語彙
a-c	いいえ 哀れ 気の毒 隅 国王 忽ち 女房 人種 正しく 正当 徒 努める 闘争 微か 命ずる 囁く
b-d	憚る 皇后 懐中 忠誠 亭主 うんと 祭壇 なだめる 不吉 両腕 氾濫 さらう 川岸 うづくまる 持ち物 生き延びる 野原 地平 群集 高々 口々 わめく マント
b-e	処する 茫然 膨れ上がる 振り上げる 立ち上る かがめる 先刻 呻く 没する

## 文 献

- 田中牧郎 (2011) 「『少年の日の思い出の語彙指導』」, 『特定領域研究「日本語」コーパス言語政策班報告書 言語政策に役立つ, コーパスを用いた語彙表・漢字表等の作成と活用』, pp.195-204.
- 河内昭浩 (2012) 「教材『羅生門』の語彙研究」, 『安田女子大学紀要』, 第 40 号, pp.193-202.
- 河内昭浩 (2011) 「作文指導におけるコーパスの活用—高等学校での小論文指導を通じて—」, 『解釈』, 第 56 巻第 5・6 号, 解釈学会, pp.27-36.

[2012. 9. 27 受理]